

また会えることを信じて

武藤 美月（中3年）

日本で桜の蕾が大きくなり始めていたころ、私たち第二十一回グアム派遣生はグアム国際空港に到着しました。

“Hafa Adai!” “Welcome to Guam!”

緊張しながら顔をあげると、大きなウェルカムボードを妹と一緒に掲げるカウンターパートの Anna の姿が目飛び込んできました。この一週間うまくやれるのかと飛行機の中で考え込んでいた私は、気が付いたら Anna のもとへ駆けこんでいました。“I’ve really wanted to see Mimi!” Anna に抱きついた瞬間に彼女からそう言われ、心から安心しました。また、Anna にやっと会えた嬉しさでいっぱいになりました。

フリーデイにはビーチへ行きました。青く底が見えるほど透明な海はとてもきれいで、一生忘れられない光景になりました。また、グアムの中学校にお邪魔するという貴重な経験をしました。幼稚園生から中学生までたくさんの生徒がいました。日本の学校とは大きく異なっていたので最初は右往左往していましたが、Anna がひとつひとつ親切に教えてくれました。明るくフレンドリーな子がいてバスケットやバレーに誘ってくれたり、チャモロダンスの得意な子がチャモロダンスを教えてくれたりと、私たちと同年代の学生の生活を実際に体感して学べ、とてもいい経験になりました。

このようにあっという間に一週間がすぎ、最終日になってしまいました。お土産を買い、家族みんなでお昼ご飯を食べて空港に向かうと、一気に寂しさがこみ上げてきました。最後に話せるチャンスだったのにあまりうまく喋れず、時間だけがどんどん過ぎていきました。空港で先に見送って帰ってしまう Anna のお姉ちゃんは、車の中で涙をうかべながら長い間ハグをして「あなたは家族だから。何かあったらいつでもおいで」と言ってくれました。Anna の両親や妹がうなずくのを見て、私は家族の一員になれたことが確認できて嬉しかったです。去り際に「私は高校を卒業したらみんなで日本へ行くから。」と言われ、私も絶対にまたグアムへいこうと決意して飛行機へ乗り込みました。

言語の壁があっても心の壁は全くなく、何かを伝えようとすると何回でも聞いてくれる。そんな優しい Anna と Anna の家族に感謝の気持ちでいっぱいです。



Anna と Anna の家族